

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

レポート学習について

新型コロナウイルスの流行により、日々の生活だけではなく勉学においても、様々なご苦勞をされておられることかと存じます。

中でもレポート学習は、通常においても難しいと感じられる方が多く、特に新入生は慣れるまで時間を要することもあるようです。そこで、卒業生より過去にいただいた体験談より、レポート学習に関する内容を中心にまとめてみました。ご参考のひとつとして、お読みいただければと思います。

●問題を読み込もう

学びの中心はレポート学習でしたが、この学習で私が徹底して行ったことは、レポート課題が自分に対して、『何を問うているか』を正確に理解することでした。これをきちんとおさえることができれば、自分の学習の進め方が格段と早くなります。そして、『問われていること』に対して、自分は『何を学べば答えることができるのか』を意識しながらテキストや参考文献を読解しました。これを行うことで自分が作成すべきレポート内容の概要をイメージすることができます。このイメージを掴むことがとても重要で、ここまで来ればレポートは7割方完成したようなものでした。後はそのイメージしたことを論述していく。

私は、2年間の学習をこの繰り返しで進めていきました。

(『With』101号 齋藤慎一さん)

●知識の引き出しを増やそう

レポートの作成は、とにかく色々な本を読んできました。参考図書として課題に記載されていなくても、とても分かりやすく解説が載っている本もありますし、色々な参考書を読むことで課題に対して理解しやすくなると思います。レポートの作成は、書き始めるまでが億劫なので、とりあえず書き始めてみるというのも大切だと思います。

(『With』94号 小黒亮輔さん)

レポート作成では教科書以外に、多くの参考文献を読みあさりました。そのおかげで、頭の中にたくさんの引き出しができました。さらにスクーリングでは、先生方から多くの知識をいただきました。今でも、疑問などが出てきた時には、教科書や購入した文献、スクーリングの際の板書を開き、目を通すこともあります。

(『With』95号 古川明子さん)

●再提出でも、めげない。先生のコメントを読もう

私は、レポートを何度も返されたことがあります。正直、悔しいとも思いました。返された教科を少しの間、無視していました。その間、他の教科のレポートは合格で戻って来ていました。そこで、合格と不合格（返却されたレポート）はどこが違うのかを徹底的に読み、考えました。返されたレポートは“自分本位”の文章であることがわかりました。先生が何を書いて欲しいのか、理解して欲しいのかということをろくに考えずに書いていたのです。おそらく、返却された経験のある方は納得していることと思います。

(『With』95号 古川明子さん)

●時間とのたたかい

夜は疲れていて頭も回らず眠くなるのでなるべく早く寝て、頭がスッキリしている早朝の4時・5時に起き、レポート作成やオンデマンド・スクーリングを視聴することにしました。早朝の学習時間は、私にとって仕事や雑務に追われることのない貴重な時間でした。効率良く集中して、気持ち良く勉強に取り組むことができ、実習中の実習記録の記入も、その後の国家試験の受験勉強も基本的に早朝の時間帯に行いました。

(『With』102号 渥美誠子さん)

通信教育生の場合、卒業研究も重要ですが、仕事も、家族との時間も重要という方が多いと思います。私は、在学中を通じて家事育児も夫婦で協力して行い、また土曜は勉強、日曜は家族と過ごす決めていました。そこで“インプットは通勤電車で、アウトプットは土曜の図書館で”と時間を使い分け、足りない分は早朝や細切れ時間で補いました。当然、記憶や思考が分断されますので、付箋紙と教科書への書き込みでマーキングしておき、週末に一気に書き出してまとめるという方法で挑みました。これが秘訣というか工夫と言えるかもしれません。あとは気合いで何とかなるものだと思います。3年次編入で卒業まで5年かかりましたが、計画通りにいなくてもあきらめずに一歩ずつでも前へと進んでいるうちに、ゴールが目の前に迫っていました。(『With』84号 寺田美秋さん)

●目標・期限を設定しよう

私には入学を決めたときに明確に決めていたことがあります。それは、「必ず2年間で卒業し、社会福祉士の受験資格を獲得すると共に、国家試験に合格する」ということでした。何かを始めるとき、必ず目標を設定す

ることが重要だと、私は考えています。社会人として働く中で、それをしている人としていない人の差は歴然です。目標設定と言っても、難しく考える必要はないと思いますが、もし、目標や期限を明確にせずに、曖昧なままことを始めると、必要以上に時間がかかったり、やらなくてはならないことを先延ばしにしたり、肝心なところで諦めてしまったりして、せっかく始めたことも無駄に終わることが少なくありません。一番いいのは、期限を定めて、その期限内に目標に向かって努力することではないでしょうか。そうすれば、必ずやるべきことの優先順位が見えてきて、どのように進めたらよいか、自ずと分かってくるはずですよ。

(『With』99号 湯浅恵さん)

上記の、卒業生の体験の多くに共通していたのは、問題や本をよく読むこと、工夫すること、そして何より少し休んだとしても「たどり着きたいものは諦めない」ことでした。諦めの良さが美点ともされる現代において、通信教育での学びに必要なのはそれと真逆の「諦めの悪さ」であるのかもしれませんが。なお、今回ご紹介した体験談はほんの一部です。卒業生の体験談は、通信教育部のホームページの『機関紙 with』のページの「バックナンバー」からもご覧いただけます（各号2部に掲載）。毎号卒業生の貴重な体験を掲載させていただいていますので、学習に迷われた時などぜひご参照ください。

このほか、レポートについては『学習の手引き』のレポート学習の章や、通信教育部ホームページの学習ガイダンスの動画 (<https://www.tfu.ac.jp/tushin/ondemand/guidance/index.html>) もご活用ください。

